

かがやけ あさひ

校長室だより 6月

自分一人ぐらいと思って
ゴミを捨てる。
地上に一億あまりの
ゴミが落ちる。
自分だけでもと思って
ゴミを拾う。
地上に一億あまりの
ゴミが消える。

縦割り清掃で一生懸命取り組む子ども達の様子を見て、ふと思ったことがあります。左のような言葉です。

自分ひとり、ゴミを捨てても変わらないだろう。そう思って、ゴミを捨てる。
自分ひとり、ゴミを拾っても変わらないだろう。そう思って、ゴミを拾わない。
その考えを自分ひとりだけでもと思ってゴミを拾おうとする行動。自分一人の力は小さいのだけど、それが積み重なると、大きくなる。微力と無力は、決定的な違いになる。ゴミを捨てる、捨てないという道徳的な問題の前に、小さな力を信じられるかどうかじゃないでしょうか。

「どうせ変わらないだろう」と思って過ごすのと、「出来る事からやろう」と思うのとでは、生き方も大きく違ってきますね。小さな力を信じられる方の人でありたいし、子どもたちにも、そうであってほしいと思います。

縦割りの清掃活動をしたよ。





にいい流れが確実に出来ています。

楽しい演劇鑑賞会だったよ。

《劇団風の子》がわざわざ北海道から来てくれました。



今回のお話は『マーレンと雨姫』で、村が百年ぶりの暑さで雨が降らず、生き物が生きていけなくなっている状態から雨を降らすために雨姫を探しまわる。その中で邪魔をする者が出てくるというストーリーです。今まで見たことのない楽器も登場し、子どもたちはしっかり見入っていました。感性に訴え、感性が磨かれるのにいい劇でしたよ。